

駿河ほねほね団活動報告

榎本真司・山本幸介

榎本真司

3月の活動では体験学習のアシスタントを務めました。内容は3Dプリンターで作成したサメの模型に色を塗るというプログラムです。まずはサメに関してパワーポイントで説明をして、サメに関する基礎知識を吸収してもらいます。次に、1人1つ3Dプリンターで作成した模型を配り、アクリル絵の具を使い自由に色を塗ってもらいました。説明を受けた通り、本物を忠実に再現しようと何度もお手本の模型を見たり、スマホで調べたりして、模型に色を塗っていきました。人に説明してもらっただけだと知識として定着しにくいですが、自分で手を動かして作成しようとする、お腹のどの部分までが黒いのかな？目はどの辺りにあるのかな？というように細かい点まで気になるものです。模型の色塗りを通して、しっかりとサメについて観察できたのではないのでしょうか。

4月の活動は科学技術高校にお邪魔して生徒さんと共同で標本を作製しました。今回の動物は二ホンイタチとチョウセンイタチ。2つのグループに分かれて、それぞれのイタチを除肉していきました。まずは胴体から四肢と頭部を外して、1人1パーツの除肉を担当する形で作業を開始しました。途中で二ホンイタチとチョウセンイタチを見比べてみたり、皮なめしを体験してみたりと充実した時間を過ごせたと思われます。高校生の皆さんも真剣に作業をしている様子でしたが、残念ながら、時間内に標本の完成とまではいきませんでした。活動後は校舎内の見学をさせていただきました。各教室の掲示板に研究の成果をまとめたポスターが所狭しと掲示されていたり、有名な建物の模型が廊下に飾ってありました。ちょっとした学会や美術館・博物館に行った気分になりました。今回のような交流がお互いにとって良い刺激になれば嬉しい限りです。

山本幸介

静岡市立日本平動物園でゾウやキリンの飼育係をしている山本と申します。動物園で獣医をされていた三宅先生の紹介を受で6年ほど前から自然史博物館ネットワークの活動に参加していま



科学技術高校での標本作製

す。ほねほね団の活動日である日曜日が仕事であることが多いので、団員の皆さんと一緒に活動することは少ないのですが、平日の休みにミュージアムで1人黙々と標本を製作しています。もし平日に活動できる方がいましたら、一緒に標本を作りましょう！

最近は骨格だけではなく、三宅先生の指導の下、鳥の剥製づくりに挑戦しています。剥製で特に気を付ける事は「剥皮」です。皮膚と、筋肉や脂肪を含んだ“お肉”の部分、ピンセットと解剖用メスを使って剥がしていきます。小さい鳥になればなるほど、皮は薄くなり破れやすいため、慎重に行う必要があります。また取り除いた“お肉”、の代わりに、「型」を体の中に入れることとなります。この型は、加工しやすいスタイルフォームを使い、取り除いた“お肉”の形を基にして整形します。これがうまく作れないと、型に鳥の皮をかぶせたときにとても不格好になってしまいます。剥皮作業前に、よく遺体を観察したり、図鑑の写真などを参考にしたりして、生きているときの姿をイメージして作ることが大切です。なお、眼球は取り除き、眼窩(眼球が収まる頭蓋骨の窪み)に紙粘土を詰め、眼球のあった場所に、手芸用の目を入れ込みます。この目がきれいに収まれば、不思議と剥製が生き生きと見えてきます。

まだまだ良い出来栄の剥製を作ることはできませんが、これからたくさんの剥製作りをして、腕を磨いていきたいと思っています。